日本語文法学会(2025年3月23日)
オンラインワークショップ「日本語の主題と焦点—言語対照の視点から—」

シンハラ語から見た日本語の主題と焦点

岸本秀樹（神戸大学）

1. 導入

- シンハラ語は、日本語の「は」に相当する（中立的な）主題を表すマーカーがない。
- 日本語は「は」で文中の**主題**を助詞で指定することが多いが，シンハラ語では**焦点**を文中で助詞で指定することが多い。
- シンハラ語では、現代の日本語ではなくなった「係り結び」に相当する形式が存在する。

2. シンハラ語の主題

- シンハラ語では、ほとんどの場合、主題は文の形式では明示的には表されず、(先行)文脈などの情報をもとに決められる。
- 最も典型的には、文はわかっている情報を先に提示してから、新しい情報を提示するので、主題は文頭に現れる。

(1) a. Ranjit wiiduruwə binda.
ランジット グラス 割った[基本形]
ランジットはグラス（コップ）を割った。

b. Hændææwe Ranjit wiiduruwə binda.
夕方に ランジット グラス 割った[基本形]
夕方にランジットがグラスを割った。

2. シンハラ語の主題

- シンハラ語では、naŋ（なら）で主題を表すことが可能である。

(2)の naŋ を伴う表現は、文脈上わかっている選択肢の中から取り出し、他のものと比較して「対比的に」主題を表す。

(2) a. Ranjit **naŋ** wiiduruwə bind**a**.
ランジット なら グラス 割った[基本形]
ランジットならグラスを割った。

b. Ranjit wiiduruwə **naŋ** bind**a**.
ランジット グラス なら 割った[基本形]
ランジットはグラスなら割った。

3. シンハラ語の焦点

3.1. 述語の形式

シンハラ語で焦点が含まれない**中立的な文に現れる定形動詞は、-aで終わる基本形をとる**。

(3) Ranjit bat kanəwa.
ランジット ご飯 食べる[基本形]
ランジットはご飯を食べる。

述語は強調形の-eをとり、述語以外の要素に焦点が置かれることが述語の形式で示される。(4)では、どこに焦点があるかは明示されてない。

(4) Ranjit bat kanne.
ランジット ご飯 食べる[強調形]
ランジットはご飯を食べる。

3. シンハラ語の焦点

3.2. 焦点助詞

tamay, may, tamaa などの焦点助詞を使用して、焦点を明示的に標示する。（これらの助詞が使用されると、動詞は強調形になる。）(5)では、助詞tamayを伴う (カギ括弧 [ ] 内の) 表現が焦点と解釈される。

(5) a. Chitra [mee potə] **tamay** kiewuwe.
チットラ　この　本　焦点　読んだ[強調形]
チットラがこの本を読んだ。

b. [Chitra] **tamay** mee potə kiewuwe.
チットラ　焦点　この　本　読んだ[強調形]
チットラがこの本を読んだ。

3. シンハラ語の焦点

(6)のように、tamayを含む文が並列された場合には，「対比」の意味で使用される。

(6) Chitra **tamay** yanne nætte. Mamə **tamay** yanne.
チットラ 対比 行く ない[強調形] 私 対比 行く[強調形]
チットラはいかない。 私は行く。

3. シンハラ語の焦点

シンハラ語には、witəray（だけ）ように、焦点を指定する機能があり、かつ、助詞自体に特別な意味が伴うものもある。
（witərayが文中に現れると、動詞は強調形になる。）

(7) Chitra potə **witəray** kieuwe.
チットラ 本 だけ 読んだ[強調形]
チットラは本だけ読んだ。

witərayは、日本語の「だけ」に相当する限定の意味を持つ。

4. シンハラ語と日本語

日本語は、主題を「は」で標示する。「は」は、主題（thematic）の意味と対比(contrastive)の意味を表すことができる (久野 1973, Kuno 1973)。

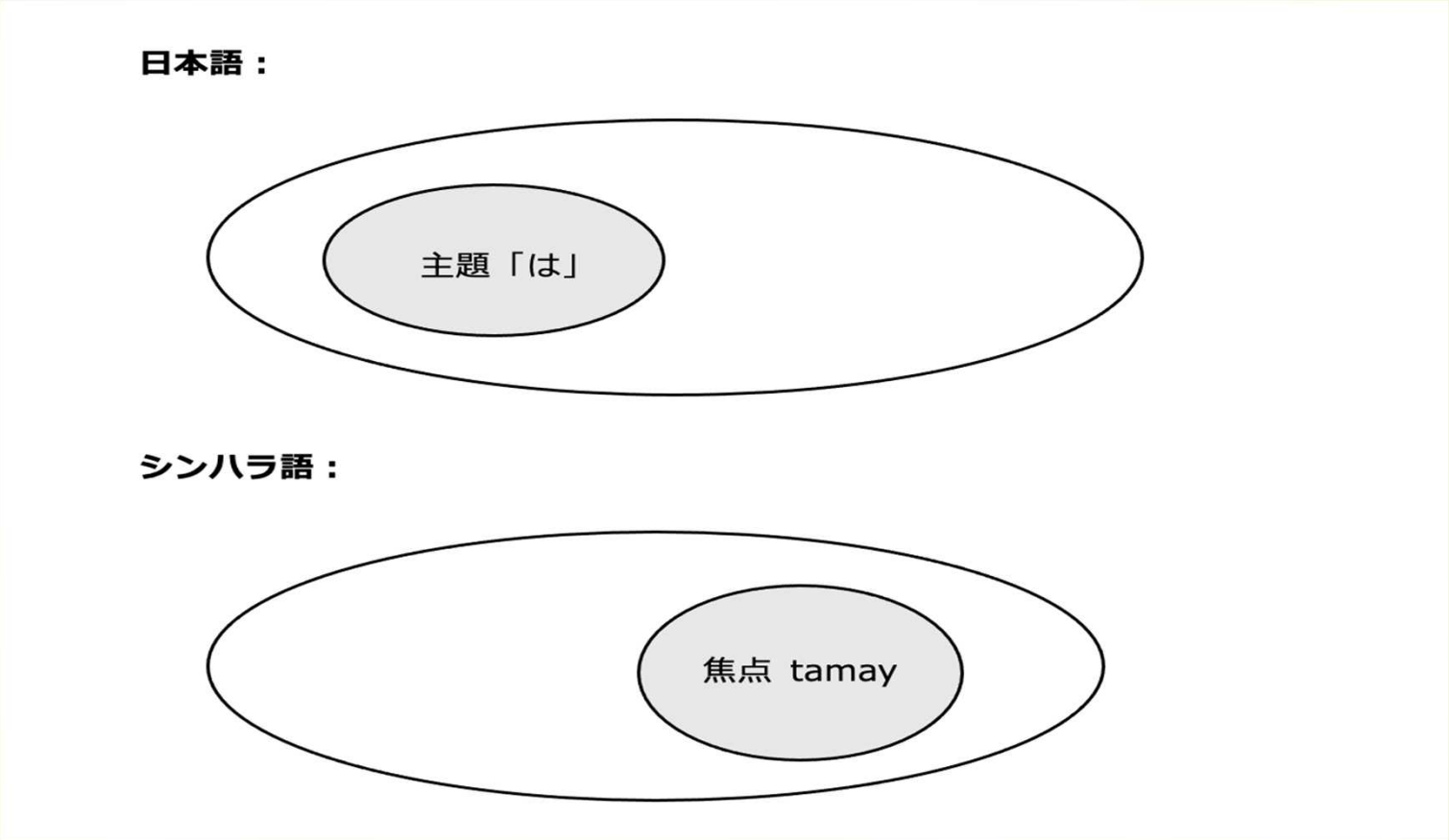
(8) a. ジョンは学生です。

b. 雨は降っていますが、雪は降っていません。

シンハラ語では、対比のない焦点と対比のある焦点を表すことができる助詞tamayが存在する。→ 日本語の主題とシンハラ語の焦点は並行的。

4. シンハラ語と日本語

(9)



5．シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

文中にtamayが現れると、-eの強調形の形式を持つ述語と呼応しなければならない。述語が基本形をとると非文法的になる。

(10) Chitra　mee potə　**tamay**　{kieuwe/*kieuwa}.
チットラ　この　本　こそ　{読んだ[強調形]/読んだ[基本形]}
チットラはこの本を読んだ。

- 古い日本語の「係り結び」と同等の形式が作られる　（ただし、焦点を指定する助詞すべてが述語と呼応するわけではない。）

5．シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

焦点を標示するtamayは，(11)で示されているように、文末に置くこともできる。動詞は、強調形ではなく基本形をとる。

(11) Chitra mee potə kieuwa **tamay**.
チットラ この 本 読んだ[基本形] こそ
チットラがこの本を読んだのだ。

(11)では、動詞が焦点になる「チットラがこの本に対して**読むことをした**」という解釈が強いが、「**チットラが**この本を読んだ」という主語を焦点にした解釈や「チットラが**この本を**読んだ」という目的語を焦点にした解釈も可能である。

5．シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

文中に現れる焦点助詞と述語形式は呼応するが、その焦点助詞でも文末に現れると、述語形式の呼応はなくなる。

(12) a.　[….. 焦点助詞 … … 述語[強調形]　]

(呼応)

b. [… … …..　　述語[基本形]　焦点助詞　　]

日本語も係り助詞が文末に移動したら、結びがなくなった。動詞の形を維持してもよさそうであるが、維持されない　–>　なぜ？

5．シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

シンハラ語では、焦点となる要素に強勢（ストレス）を置くことによって、文中の要素焦点を指定することもできる。

(13) a. **RANJIT** wiiduruwə {binde/binda}.
ランジット　グラス　{割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。

b. Ranjit **WIIDURUWə** {binde/binda}.
ランジット　グラス　{割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。

強勢によって焦点が指定される場合には、述語が文法的に強調形をとる必要はなく、基本形で現れても焦点の指定は可能である。

5．シンハラ語の焦点助詞の位置と呼応

強勢による焦点の指定は、動詞に対しても可能である。これは、動詞が基本形を持っている時に可能である。強調形になると、強勢によって動詞を焦点とすることはできない。

(14) Ranjit wiiduruwə {*BINDE/BINDA}.
ランジット グラス {割った[強調形]/割った[基本形]}
ランジットがグラスを割った。

強調形を持つ動詞が強勢による焦点とならないのは、強調形が焦点になり得ないことを表しているからである。

6. シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

文末の定形動詞と焦点助詞は、スコープ(文のどのレベルでの焦点化が起こっているか)を指定する機能がある。 (15)は、kiyənəwa（言う）が埋め込み節をとった場合。

(15) a. Chitra [Ram potə **tamay** gatta kiyəla] **kiiwe**.
チットラ ラム 本 こそ 買った[基本形] と 言った[強調形]
チットラが[ラムが買ったと]言ったのは**本**だ。

b. Chitra [Ram potə **tamay** **gatte** kiyəla] kiiwa.
チットラ ラム 本 こそ 買った[強調形] と 言った[基本形]
チットラが[ラムが買ったのは本と]言った。

(15a)は主節での焦点化、(15b)は埋め込み節の焦点化が起こっている。

6. シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

主節に焦点化助詞が現れる場合、埋め込み節のレベルの焦点化はできない（動詞を強調形にできない）。主節レベルでは可能。

(16) a.*Chitra **tamay** [Ram potə **gatte** kiyəla] kiiwa.
チットラ こそ ラム 本 買った[強調形] と 言った[基本形]
チットラは[ラムが本を買ったと]言った。

b. Chitra **tamay** [Ram potə gatte kiyəla] **kiiwe**.
チットラ こそ ラム 本 買った[基本形] と 言った[強調形]
[ラムが本を買ったと]言ったのはチットラだ。

6.シンハラ語の焦点構文のさらなる考察

(17) 焦点の指定　→ 2つの方法で可能

a. 焦点助詞による指定

b. 強勢による指定

(18) スコープの指定　→ 2つの方法で可能

a. 強調形述語による指定

b. 焦点助詞による指定

(19) 焦点助詞は、文に1つしか許されないため、焦点の指定かスコープの指定かのどちらかを選択しなければならない。

7. まとめ

本発表で示したこと

- 日本語は「は」で文中の**主題**を助詞で指定することが多いが，シンハラ語においては**焦点**を文中で指定することが多い。
- シンハラ語では、現代の日本語ではなくなった「係り結び」に相当する形式が存在する。

参考文献

Chandralal, Dileep (2010) *Sinhala*. John Benjamins.

Fairbanks, Gordon H, James W. Gair and N. W. S. De Silva (1968) *Colloquial Sinhalase (Sinhala) Part 1.* Sinha Books.

Gair, James W. (1970) *Colloquial Sinhalese Clause Structure*. Mouton.

Gair, James W. (1998) *Studies in South Asian Linguistics: Sinhala and Other South Asian Languages*. Oxford University Press.

Haiman, John (1978) “Conditionals are topics.” Language 54, 564-

Henadeerage, Deepthi Kumara (2002) *Topics in Sinhala Syntax*. Ph.D. dissertation, The Australian National University.

Kishimoto, Hideki (1992) LF pied piping: Evidence from Sinhala. 『言語研究』102, pp.46-87, 日本言語学会.

Kishimoto, Hideki (2018a) “Focus concord constructions in Sinhala: A discourse-syntactic perspective.” *Glossa* 3(1).9 pp.1-25*. Special Collection: Focus Concord Constructions in Japanese and Other Languages.*

Kishimoto, HIdeki (2018b) “Some asymmetries of scope assignment in Sinhala.” Kunio Nishiyama, Hideki Kishimoto, and Edith Aldridge (eds.), *Topics in Theoretical Asian Linguistic*s: *Studies in Honor of John B. Whitman*, 73-96, John Benjamins.

岸本秀樹 (2019)「シンハラ語のとりたて表現」野田尚史（編）『日本語と世界の言語のとりたて表現』pp. 201-218, くろしお出版.

Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge: MA. MIT Press.

久野暲(1973)『日本文法研究』東京：大修館.